

国際学力テストと 日本型学力：比較視点から

恒吉僚子

東京大学教育学研究科・助教授

国際学力テストの落とし穴

- アメリカの“教訓”
- 1960年代—1970年代のアメリカ 理想主義的な
- 子ども主導の指導
- 1980年代 学力低下論と学力向上改革の波 180
- 度 振れる
- 学力低下論アメリカ版 SAT、国際学力テスト
- (仮想教育競争国 日本、ドイツ)
- そして今日・・・市場競争とテスト (あめと)鞭

No Child Left Behind



Standards and Assessments

- DESPERATEな改革と国際学力テスト
- ランク付表にだけ目が向きがち(何カ国中何番)
- 公教育(教師)への不信を区別なくあおる
- GOALS 2000 数学と理科で世界一に
- “現実”の要請 > (あるべき社会のヴィジョン)
- 極端から極端へー(無)統制から完全統制へ？
- 例 統制的教授モデルの台頭 DI (ビデオ)

- 経済競争力と国際学力テストの点数の低さ・低下を直結させる アメリカ、ドイツ、日本？
- テストの点数と「学習」を同一視する
- 不完全な測定ツール(例 問題解決能力を
- どう測定するか)
- 抜け落ちる「どのように」“HOW?”の問い。
- TIMSS 高順位の受験詰め込み教育国？
- PISA フィンランドは？
- 社会的脈絡が欠落(大雑把な指標)

日本型学力の行方

■ 問われる戦後日本型の対外的評価

全人教育・社会性の高い評価

特別活動、実践から集団性・・・

能力別のない平等主義(小)

上下の格差少ない、階層の影響少ない、均質性

問題解決的授業の高い評価(算数)

例 レッスン・スタディ

- 崩れる共同性志向・平等志向
- スリム化で社会性の部分を削る
- 教科担任制、クラス替え・・・
- 小学校でも導入の習熟度別
-
- 階層格差の拡大（PISA）社会－教育
- 格差拡大の社会状況と同じ方向の教育
- 政策？　ますます広がる教育格差？
-
- 模索の続く21世紀型学力
- 「考える力」？計算ドリル？・・・新しい統合？

■ 受験社会の学力再考

■ TIMSSの上位国

- (東)アジア型の受験社会的、高学力－高圧力(急速な近代化)、内容が多く教師主導の“詰め込み型”教育 - 日本は長らくその代表と思われてきた

- 社会的条件の変化(受験圧力の一定層での低下…) + 脱“詰め込み”政策

■ 脱“詰め込み”型学力の先…

- 再“詰め込み”化？
- より分化した格差のある競争社会？
- (東)アジア型でもなく、欧米型でもない？

アジアの脱“詰め込み”型の模索

- 21世紀型学力への対応 「考える力」の中身
 - 各国で模索する「考える力」
 - 一定レベルで共通するイメージ：
 - 子ども主導の回答プロセス、問題解決的学習、
 - グループ活動、討論、発表、調べ学習・・・
-
- 例 シンガポールの「考える」算数
 - モデル・メソッド